

「コミュニケーション能力を高めるテレビ会議」

- 特殊学級 生活単元学習を通して -

深谷西小学校

1 単元名 作品展を見に行こう

2 単元の目標

- (1) 作品作りに席を立たず、根気よく取り組むことができ、作品作りを楽しみ、工夫して作ることができる。
- (2) 協力して作品展のポスター作りや招待状作り、見学の呼びかけをすることができる。
- (3) 近隣の学校と作品作り等の情報交換を(情報機器を使い)することができる。
- (4) いろいろな人とコミュニケーションをする経験ができる。

3 指導計画概要 (33時間扱い)

- ・写真や作品に触れ、自分の作りたい作品を考え、材料を準備する。・・・3時間
- ・作品展のポスターや招待状を作り、掲示したり、届けたりする。・・・6時間
- ・作品展の作品を作る。・・・16時間(本時9/16)
 - デジカメ撮影 (1時間)
 - テレビ会議：各自が作品を見せ合う。(20分) 本時
- ・作品展を見学する。・・・4時間
- ・まとめをする。アルバム整理や感想、デジカメ記録を作る。・・・4時間

4 情報機器活用の意図・情報教育の視点

作品作りにおいて、その作り方等の情報をデジタルカメラで記録し、メール等で交換したり、テレビ会議で相手校と作品の紹介や交流をした。作品をデジカメで記録に残すことは、データベースとしての活用やポートフォリオ評価にも利用できる。また、映像での交換が手軽にできるという利点がある。テレビ会議は、相手の話をきちんと聞いて、返事や応答もはっきりとしないと会話が成立しにくい。知的障害や情緒障害のある児童にとって、自分の考えを言葉や態度で表し伝えることや、相手の言葉を理解することなど、的確なコミュニケーション能力を育てることは、社会参加のために大切な力となると考える。

5 本時の学習

- (1) 本時の目標
 - ・テレビ会議で自分の作品の紹介ができる。
 - ・テレビ会議で相手校の友だちの話を聞くことができる。
 - ・友だちと仲良く、根気よく作品作りができる。
- (2) 展開の概要 次ページ

6 成果と課題

- ・テレビ会議は、今回で2回目だが、司会役を務めた5年生のA子は、初めは表情も硬く、言葉も教師のオウム返しであったが、次第に、自分で考えて言葉を話すようになり、相手も意識して進行できるようになった。
- ・個人によって課題は異なるが、自分の作品の紹介を大きい声で伝えようとする児童、相手から材料や作り方について質問を受けて答える児童、テレビの画面を見つめる児童、どの顔にも画面の相手を意識してかかわろうとする様子が見られた。
- ・デジタルカメラは手軽で、児童が楽しんで使えるので、表現方法の一つとして活用できると考えられる。情報機器の導入として使い、コンピュータへと発展させていき、多様な表現方法を身につけさせたい。

(2) 展開 (部分)

学習活動	支援の手立て / 評価の観点(*) 研究課題の評価(◎)										
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	
1 始めのあいさつをする。	○ テレビに向かって、半円に座って集まり、みんなであいさつをし、めあてを確認する。										
	・Dさんと一緒に座り、Dさんの言葉を聞きながら号令に合わせて礼をする。				・みんなと同じ場所に座り、立ち上がらないように、立ち上がりそうになったら、立ち上がらないように言葉かけをする。	・テレビの方に身体が向くような座り方を知らせ、促す。教師が横につき立ち上がりそうになったら言葉かけをする。	・テレビの方に身体が向くように肩を押さえない正しい座り方を知らせ、促す。興奮をしないように		・みんなと一緒に座っているように言葉かけをする。		・自分のめあてをしっかりと理解し自主的に活動できるようにする
2 相手校の友達とテレビを通して話をする。	○ 相手校とあいさつをし、出品する作品について、テレビを通して伝え合う。										
	・テレビの画面が見えにくいようであったら、少し前を出す。 画用紙の持ち方を伝え、一緒に持つ。 ※画面から聞こえてくる人の声や画面に映る友だちに気づけたか。 ※マイクに向かって名前が言えたか。	・相手のあいさつに反応し、声を出そうに支援する。 ・相手に伝わるような声の大きさや発音であったか。 ※	・相手の言葉を最後まできちんと聞いて、適切なあいさつや自分の言葉での返事を返せるようにするために、人の顔を見ます。 ・自分の作品を見せて、何を質問するか話すよう声を掛けする。 ※相手の質問に反応して、言葉を返すことができたか。	・相手の話を良く聞き、自分の言葉で返答をする。賞める機会を多くし、自信を持たせる。 ・事前に質問を書いて相手校に質問してみたい事等を考えて、質問するように声を掛ける。 ※自分の名前と作品名を呼ぶことができるようになったか。 ◎テレビ会議に友だちの邪魔をしないで参加できたか。	・画面に映った相手のあいさつに声できちんとあいさつするよる。 ・姿勢を正しく保ち、作品を見せながら、自分の名前と作品の題名が言えるように言葉かけをする。 ※自分の名前と作品名を呼ぶことができるようになったか。 ◎テレビ会議に友だちの邪魔をしないで参加できたか。	・友だちを叫んだりしないで、画面を見るように声をかけをする。また時間の指定をすることで、する。 自分の順番が来たら、自分の名前を言い、作品を見せながら、作品の題名を言う。 ※いつもの雰囲気と違うため、その環境に自分を馴染ませることができたか。 ※伝えられた時間までテレビを見ることができたか。	・みんなと同じ場所にいられたら、テレビを見るように声をかけする。立ち上がりそうになったら、声をかける。 ※みんなと同じ場所にいられたか。	・みんなと同じ部屋で遠くからテレビ画面を見られるように声をかける。 ※作品紹介において、自分の作品を手に持っていて、テレビの前に立つことができたか。	・順番を守って、相手の話をよく聞き、自分なりに返答するように声をかける。 ◎みんなと一緒に相手校に質問してみたい事等を考えて、短くまとめて質問できるように声をかけする。 ※短くまとめて質問ができたか。 ◎相手校との会話を楽しむことができたか。		

